

---

「やらないといけない」課題はない。

「やってはいけない」課題もない。

< スカルス手工芸学校留学記 > 戸門由佳



個性が大切

デンマークのユラン半島の北、スカルスという小さな田舎町にある古い煉瓦作りの建物が、60年の歴史を持つ『スカルス手工芸学校』です。私はこの学校で2009年の1月から半年間、21人の生徒たちと生活をともにしながら手工芸を学びました。

生徒は、デンマーク人の他に、アイスランド人と日本人。年齢は17才から54才まで幅広い年代の人と一緒に学びました。授業は2クラスに分かれ、「織り」「刺繍」「洋裁」をメインとしたカリキュラムに沿って行われます。その他に、陶芸、編物、フェルト、ジュエリー、革、エスカ（デンマーク伝統の箱）などの授業もあります。

授業には、「やらないといけない」課題はっさいありません。「やってはいけない」こともありません。自分が「やりたい」「作りたい」と思ったものを、先生のアドバイスを受けながら作り上げていきます。とにかくのびのびして楽しい。

そして一人一人の『個性』がとても尊重されます。人は他の人と違ってあたり前ということと、その一人一人が持つ『個性』というものの素晴らしさを改めて感じました。洗練されたデザインや刺繍に代表される優れた手工芸を数多く生み出しているデンマークですが、そのレベルの高さの理由の一つにはそんな『個性』を尊重し自主性を高める教育が関係しているのではないかと思います。

hyggelig

授業のあとは、散歩したり、庭でバレーボールをしたり、野球をしたり、焚き火をした

り、ピクニックに行ったり。そして夜はみんなで集まって、ロウソクの灯りの中でお話しながら、編物をしたり、歌を歌ったり、踊ったり、ときにはお酒を飲んだり。休みの日は先生や友人の家に遊びに行くこともしばしばありました。



ここで出会った人たちみんなが優しくておだやかで、そんなみんなと過ごした時間全てが心地良いあたたかさにあふれていました。

デンマークの人たちは「hyggelig」(楽しいこと、心地良いこと)を大切にしています。そんな考え方にお金では買えない心の豊かさを感じました。

私が留学を考えるようになったのは、ある本を読んだことがきっかけでした。その本には高い教育水準、福祉社会を実現しているデンマークの社会について書かれていました。国民の幸福度世界一位のデンマーク。そこで暮らす人達がどんな考えかたを持ち、どんな暮らしをしているのかということを知ることは、これから豊かな人生を送るためのヒントになるのではないかと考えました。

私はここでの半年間の数々の体験、そして人との触れ合いを通して、そのヒントをたくさん得ることができ、デンマークへの留学をして本当に良かったと思っています。

(とかど ゆか：2009年1月～6月留学)